

秋田市大森山動物園情報誌

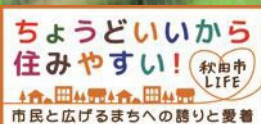
コミュニケーション

No.112

2026.10月号

Contents

- P2～3 園長あいさつ/こんにちは! あかちゃん/
仲間入り/移動動物/計報/飼育動物数
- P4～5 【特集1】「ワクワク体験はじめました!!」
- P6～7 【特集2】展示場を緑豊かに!
- P8～9 飼育レポート/動物病院から
- P10～11 イベントレポート/今後のイベント
- P12 飼育日誌/お客さまの声/かたばた通信



緑地化した展示場で草を食べるプレーリードッグ

園長あいさつ

イベント開催への思い

園長 本間 弘生

大森山動物園では、この夏も多くのイベントをご用意して、皆さまのご来園をお待ちしていました。

今年初めて取り組んだ7月の「夕涼み動物園」では、「空が少しずつ暗くなって、昼間とは違った雰囲気になり、わくわくした気持ちになった」といううれしい声をいただきました。

8月に開催している人気の「夜の動物園」では、県内外からたくさんのお客さまにお越しいただきました。

大森山動物園では、一年を通じてさまざまなイベントを開催しています。それは、実際に動物園に足を運んでいただき、動物への理解を深めてもらうとともに、観察する楽しさや動物園の役割をお伝えしたいという思いからです。

また、動物や動物園との間に「感情的なつながり（愛情）」が生まれる機会を提供することもとても大切なことだと考えています。人は好きになったものを守ろうとします。動物園での体験や思い出を通じて動物への愛情が育まれ、野



動物への愛情を育むさまざまなイベントを開催
(ラクダのエサやり体験)

生動物への関心や自然保護への理解が深まるとともに、動物園への理解と支持にもつながればと願っています。

皆さまに愛され、足しげく通っていただける動物園となるよう、これからもさまざまなイベントを企画・開催してまいります。

こんにちは!

あかちゃん

コモンマーモセット

2026年2月3日に2頭が生まれました。お父さんもしっかりと子育てに参加し、子どもたちはすくすくと成長しています。7月にはさらにもう1頭生まれ、兄弟も子育てに参加するほほえましい姿も見ることができます。(8ページの「飼育レポート」で詳しく取り上げています。)

このほか、ワオキツネザル2頭、フンボルトペンギン1羽、モルモット5頭、マーコール2頭の赤ちゃんが生まれています。

2026年1月以降に大森山動物園で生まれた赤ちゃんをご紹介します。



2月に生まれた
「おこめ（オス）」と「たわら（オス）」



7月に生まれた「あられ（オス）」

よろしくね!

仲間入りした動物たち

トナカイ



アポロ（オス）

2026年5月14日、北海道幌延町の「ほろのベトナカイ観光牧場」から「アポロ」が来園しました。はじめは、物音や人の気配におっかなびっくりの様子でしたが、次第に環境に慣れ、現在は、ほかのトナカイと一緒に暮らしています。

この個体は、(株)秋田銀行様のネーミングライツパートナー料を活用して購入しました。

アカカンガルー



ロミオ（オス）

2026年5月15日、よこはま動物園からアカカンガルーの「ロミオ」が仲間入りしました。最初はおそるおそる展示場にでてきましたが、最近、先住の「ミオ（オス）」とのスパーリングもみられるようになりました。(9ページの「飼育レポート」で詳しく取り上げています。)

このほか、モルモット（メス、1頭）が仲間入りしました。

元気でね!

大森山を後にした動物たち

カピバラ



大豆 (オス)

2026年3月19日に仙台市にある動物専門学校へ移動しました。今後は動物飼育を志す学生たちの勉強のために、一肌脱いでもらうことになります。



ジャンボウサギ



ミドリ (メス)

2026年4月15日に那須ワールドモンキーパークに引っ越しました。秋田犬と並んで秋田を代表する動物であるジャンボウサギ。那須でも秋田のPRを頑張ってもらいたいと思います。



忘れないよ

訃報

カピバラ



コムギ (オス)

2026年2月1日に12歳で亡くなりました。2014年10月に埼玉県こども動物自然公園からやって来ました。2頭のメス「ぐり」、「ぐら」との間に多くの子どもをもうけ、大森山動物園のカピバラファミリーの大黒柱として頑張りました。

グリーンイクアナ



アナ (メス)

2026年2月8日に亡くなりました。とても穏やかな性格で、日光浴のためにお散歩するとお客さまが輪になって集まるほど人気でした。また、どうぶつパレードや記念撮影会などのイベントでも活躍しました。



ル/コンゴウインコ



テリー (オス)

2026年6月16日に亡くなりました。2003年に4月に兵庫県の宝塚市から来園し、20年以上にわたって相棒のドリーと一緒に仲良く暮らしました。声が大きく、にぎやかなインコ舎の一員でした。



カナタヤマアラシ



メープル (メス)

2026年6月17日に亡くなりました。2021年11月に当園の「もずく」の繁殖相手として、浜松市動物園から借り受けました。残念ながら、もずくがその2年後に亡くなってしまったため、繁殖には至りませんでしたが、そのかわいらしい仕草などでお客さまに人気がありました。

このほか、モルモット、プレーリードッグ、インドクジャク、コモンマーモセット、セキセイインコ、アカカンガルー、ワオキツネザル、フンボルトペンギン、ニホンリス、ニホンコウノトリ、マーコールが亡くなりました。

飼育動物数 (2026年6月末現在)

哺乳類	鳥類	爬虫類	両生類	魚類	無脊椎動物	計
45種類 302点	24種類 119点	12種類 25点	3種類 8点	3種類 47点	1種類 23点	88種類 524点

「ワクワク体験はじめました!!」

2026年シーズンは、大森山動物園の魅力を多方面に発信し、たくさんのお客さまにご来園いただくことを目的に、ラッピングバス、まちなかアートプロジェクト、夕涼み動物園、クリスマス動物園の4つの新たな取り組みにチャレンジすることとしています。

今回は、6~8月に行われた3つの取り組み = 「ワクワク体験」をご紹介します。

ワクワク その1

走れ!大森山動物園ラッピングバス

企画広報担当 主席主査 金 大咲

7月5日、大森山動物園の魅力を秋田市民に再認識してもらうとともに、観光客などにも幅広くPRすることを目的とした「大森山動物園ラッピングバス」が完成し、お披露目式を行いました。

ラッピングのデザインは、秋田公立美術大学生の中から公募し、コミュニケーションデザイン学科3年の榎 陽登（さかき はると）さんの作品が選ばれました。

車体の左右に大きくプリントされたアムールトラとキリン、背面の仲良しレッサーパンダが一際目を引きますが、車内から外をのぞいているようなユキヒョウ、乗降のたびに扉に見え隠れするフクロテナガザルなど、思わず微笑んでしまうような工夫も施されています。

また、車内はオモリンや動物のぬいぐるみなどで装飾されており、乗車中もお客さまが楽しめるようになっています。

お披露目式で沼谷市長から感謝状を手渡された榎さんは「大森山動物園をより身近に感じてもらえるよう、幅広い世代の方々に親しみやすいデザインを制作しました。このバスが街を走ることで、大森山動物園や地域の魅力に触れるきっかけとなり、関心や愛着につながれば幸いです。」と話してくれました。

お披露目式終了後、浜田小学校の児童などを乗せて、動物園周辺の浜田地区を試運転し、みんなで完成を祝いました。

ラッピングバスは、7月6日から2027年3月末まで、秋田中央交通株式会社の路線バスとして、JR秋田駅から動物園方面に向かう「新屋線」を含め、市内各路線で運行予定です。

バス右側面のキャッチコピー「今日は『推し』に会いに行こう!!」のとおり、ラッピングバスに乗って、ぜひ推しの動物に会いに来てください。



お披露目式で感謝状を贈呈
(榎陽登さん(左)と沼谷市長)



乗ってからも楽しめる
動物園仕様の車内



参加者で記念撮影



~今日は「推し」に会いに行こう!!~



側面：アムールトラやキリンが目を引き、バスの形状を生かした工夫も!



背面：レッサーパンダやオモリンをデザイン

今年で12年目となる「大森山アートプロジェクト推進事業」は、これまで秋田公立美術大学（以下、美大）との連携により、動物園内や大森山公園、新屋・浜田地域で数々のアート作品を制作・展示することで、動物園に「動物を見る以外の楽しみ」を創出するとともに、地域の活性化にも寄与してきました。

今年度は新たなフェーズ「まちなかアートプロジェクト」として、活動の場を秋田駅周辺の中心市街地に移し、竿燈まつりの観光客などをターゲットに作品展示を行うことで、動物園と美大の取り組みを広め、新たな客層へアプローチすることに挑戦しました。

6月20日、21日の2日間は、秋田市文化創造館を会場に「どうぶつ絵灯籠制作ワークショップ」を開催しました。延べ53名が参加し、灯籠に貼り付ける和紙に思い思いに動物の絵を描き上げました。完成した絵灯籠は、7月17日の「千秋蓮まつり」にあわせて千秋公園お堀の遊歩道前に、



美大生が参加者に描き方のアドバイスをする場面も
（どうぶつ絵灯籠制作ワークショップ）



8月3日、4日の「秋田竿燈まつり」にあわせて秋田駅前西口芝生広場に展示しました。

夏まつりでにぎわう会場で、幻想的にライトアップされた絵灯籠は、多くの観光客の目を引きつけ、動物園と美大によるアートプロジェクトの取り組みを、改めてPRすることができました。



千秋公園のお堀を照らすどうぶつ絵灯籠（千秋蓮まつり）



秋田駅前西口芝生広場（秋田竿燈まつり）



近年の記録的な猛暑を踏まえ、夕方の涼しい時間帯にも動物園を楽しんでもらおうと、7月の土日限定で「夕涼み動物園」を初めて開催しました。

通常は16時30分までの開園時間を、19時まで延長。夕暮れとともに暑さも和らぎ、過ごしやすくなった園内で動物たちの様子をご覧いただきました。

期間中は週替わりで特別動物イベントを開催したほか、風鈴やミニプールも設置して、涼しげな雰囲気を演出しました。



モルモットを
優しくなでなで
「夕涼み！なかよしタイム!!」
（7月4日開催）



サル舎「天空の楽猿」で
夕食の様子を観察！
「サルたちの晩ごはん!!」
（7月11日開催）



特製アイスクャンディーをプレゼント
「ゾウのスペシャルまんまタイム」
（7月25日開催）



野性味あふれる瞬間を目撃！
「ライオンの特別まんまタイム」
（7月18日開催）



開催期間中は限定の風鈴やプールが登場！



夕暮れ時の動物たち（ペンギンの夕涼み散歩、夕日に照らされるキリン）



展示場を緑豊かに! ~緑地化計画の取り組み~

大森山動物園では、2026年3月から動物たちの生活環境の向上と園内の景観改善を目的として、多年草牧草や芝による展示場の緑地化に取り組んでいます。

そうした取り組みの中から4つのスポットをピックアップして、その内容と、緑地化後に見られた動物たちの変化についてご紹介します。

緑化スポット

①

サル舎「天空の楽猿」

飼育展示担当（動物専門員） 牛越 利之

サル舎「天空の楽猿」の屋外展示スペースは、水はけが悪く、展示場が冠水してしまうことがありました。排水を改善しようと、土を掘り返したり、芝を植えたりしてきましたが、うまく定着することができませんでした。

屋外展示スペースには日替わりでクロシロエリマキキツネザル、ブラッザグエノンを展示しています。このうちブラッザグエノンは好奇心旺盛な性格で、葉や草などをよく食べます。そこで、展示場に緑を増やすことで、水はけと食事の両面を同時に改善できるのではないかと考えました。

3月上旬から土壌の改良を開始し、耕した土に石灰を混ぜてpH調整を行った上で、堆肥を追加し、6月3日に牧草の種まきを行いました。

種まき後、1週間程度で小さな芽が所々で生えてくるのが確認でき、7月7日には、展示場全体の80%程度が青々とした若芽になりました。

その後、クロシロエリマキキツネザルは牧草の上に寝転び仰向けで日光浴をする様子が、ブラッザグエノンはみず

みずしい牧草を選んで食べたりする行動が見られるようになりました。

また、多少の雨では水たまりもできなくなり、水はけの問題も解消しつつあります。

今後も、この状態を長く維持していきたいと考えています。

展示場でくつろぐ
ブラッザグエノン



サル舎「天空の楽園」外展示場
(緑地化前)



(緑地化後)

緑化スポット

②

カンガルー展示場

飼育展示担当 主席主査 宇佐美 均

オスのカンガルー展示場は土や砂で覆われ、乾燥すると土埃が舞い、雨が降ると水たまりができたり、表土が流されてしまうなど、緑が少ない乾いた環境でした。

そうした課題の解決と飼育環境の改善、景観向上を期待して緑地化に取り組むこととしました。

新たにイネ科の多年草牧草を播種するため、土壌を耕起し、保水性と根が定着しやすい環境を作りました。化学肥料は使用せず、適時の散水と雑草取りで生育を促したところ、1週間程で発芽が見られました。

カンガルーは草を根元まで食してしまうため、新芽が食べられないよう日中は嗜好性の良い「桑の枝葉」を与え、生育への影響と牧草面積の減少を抑制しました。そのほかに、草丈が短い物にもしっかりと日光や水分が行き渡るよう、定期的な草刈などを行い、現在では15cm程度まで成長し、景観も随分と向上しました。

カンガルーも時々新鮮な牧草を食べ、健康維持にも役立っているように感じます。

今年秋にも播種を行う計画であり、緑地化を通じて、動物にもお客さまにも、より良い環境作りに努めたいと思います。



緑地化前のカンガルー展示場



緑地化した展示場での新鮮な牧草を食べるアカカンガルー

リス展示場

飼育展示担当（動物専門員） 奥山 麻裕子

ニホンリスは、本州・四国・九州の森林に生息する動物です。そんなリスたちがより自然に近い環境で過ごせるように芝の播種を行いました。

5月27日、梅雨入り前のタイミングで展示場の土を耕し、堆肥を混ぜてから芝の種をまきました。種は、リスに食べられないよう、土の中にしっかりと混ぜ込みました。

播種後は、芝の生育のために毎日散水を行いました。その際、リスたちが自ら地面に降りてきて水浴びをする様子が見られました。体が小さいリスは体温が下がりがやすいため、ぬれることを常に嫌うと考えていましたが、気温が20度を超える日には気持ちよさそうに水浴びをする姿が観察され、新しい発見となりました。

今回は、展示場ごとに堆肥の量や散水方法を変えて、芝の育ち方の違いも観察しています。今回の結果を活かし、リスたちが快適に過ごせる環境づくりを続けていきたいと考えています。8月時点では、芝がまだ少しずつ育ち始めたばかりですが、緑が広がった際は、その中を元気に駆け回るリスたちの姿を見てみたいです。



リス展示場緑地化前（5月）



芝が生え始めた展示場（8月）



芝の周りを俊敏に駆け回るリス

プレーリードッグ展示場

飼育展示担当（動物専門員） 齊藤 光貴

プレーリードッグは、北アメリカの草原地帯に生息している動物で、巣穴を掘って群れで生活しています。そのため、プレーリードッグ展示場を少しでも生息環境に近づけたいと考え、2025年の秋から展示場の芝生育成計画をスタートさせました。

初めに行ったのが、展示場の土壌改良です。雨の影響で土壌が酸性化していると芝生が上手く育たないため、消石灰を散布し、土壌をアルカリ性に中和しました。芝生の播種を行う1週間前には、有機石灰も散布しました。4月の初旬に芝生の播種作業を行いました。播種を行ってから1か月ほどは芝生の発芽が確認できず、失敗したのではないかと不安に思いましたが、5月中旬から少しずつ発芽し始め、7月下旬には展示場一面に生い茂るほどに育成しました。

8月に入り、芝生の展示場にプレーリードッグを放飼したところ、はじめは目新しい景色に警戒した様子でしたが、すぐに慣れて、芝生の上を駆け回る姿や芝生を食べる姿を見せるようになりました。

芝生を育成したことにより、展示場の景観が良くなっただけでなく、プレーリードッグの動き回っている時間も大幅に増えて、この計画に取り組んでよかったと感じています。



緑地化前に消石灰を散布したプレーリードッグ展示場



緑地化後



芝生を食べるプレーリードッグ



飼育レポート

「モルモット感謝の日」の取り組み

飼育展示担当（動物専門員） 佐藤 有紀乃

7月16日は、モルモットへの正しい接し方や飼育方法の普及啓発を目的とした「モルモット感謝の日」です。モルモット担当3年目となる2026年は、来園者にそれぞれの個性や特徴を知ってもらうことで、モルモットへの理解や関心を深めてもらう取り組みを実施しました。

その1つとして考えたのが「推しモル投票」です。多数の飼育個体の中か

らお気に入りの1頭を選んで投票してもらうことで、ポスターと実際の個体を見比べながら特徴をじっくり観察する来園者が増え、ふれあいコーナーでの来園者の滞在時間が延びたように感じます。また、「モルモットの橋渡し」では、推しのモルモットの名前を呼んで応援する姿が見られ、個体への愛着を持って観察する来園者も増えました。

これらの取り組みを通して、モルモットを単なるふれあい動物としてだけでなく、それぞれ個性を持った一つの命として捉える来園者が増えたように感じています。

「モルモット感謝の日」をきっかけに、モルモットをはじめとするふれあい動物が、私たちに癒やしや学び、命の大切さを伝えてくれる存在であることに改めて感謝する機

会にもなりました。

今後も飼育担当者として、動物への敬意や感謝の気持ちを大切にしながら、それを育めるような取り組みを続けていきたいと思っています。



23頭がエントリー！SNSでの期日前投票と併せて多くの方が参加した「推しモル投票」



「橋渡し」で推しのモルモットに声援を送る参加者



橋渡し後は参加者が盛り付けたごほうびプレートをプレゼント

5年ぶりのコモンマーモセットの繁殖

飼育展示担当（動物専門員） 長谷川 宗



2月に生まれた「たわら（左）」と「おこめ（右）」



大森山動物園で飼育しているコモンマーモセットたちは、以前は同じオスとメスのペアから繁殖した個体ばかりだったので、これ以上繁殖を継続することができませんでした。

しかし、2024年にメスの「モコ」が上野動物園からやってきて、園内で繁殖が再開できる状態になりました。

そこで、2025年7月19日からさるっこ森で、繁殖のためにモコとオスの「もめん」の同居を開始したところ、2026年2月3日に念願の赤ちゃんが2頭生まれました。大森山動物園では

2021年以来、5年ぶりの繁殖です。親が子の世話をちゃんとするかどうか心配していましたが、モコともめんは交代でしっかりと2頭の赤ちゃんを抱っこしていました。授乳の際はモコが赤ちゃんを抱っこしますが、それ以外はもめんが一生懸命抱っこしていました。子も離されまいとしっかりと親の体にしがみついていました。その様子を見て、動物の生きようとする姿に感動するとともに、2頭には心の底から感謝しました。

一度繁殖が上手くいくと繁殖のリズ

ムができるのか、出産の10日後くらいに、モコともめんの交尾が再度確認され、2026年7月8日に、子が1頭生まれました。コモンマーモセットは家族単位で子の世話を協力して行う動物です。2月3日に生まれたお兄ちゃんである「おこめ」と「たわら」も今回から子育てに加わり、2026年8月現在、4頭で赤ちゃんのお世話をしています。



7月に生まれた「あられ（上）」を一家で子育て

カンガルー繁殖への取り組み

飼育展示担当 主席主査 宇佐美 均

カンガルーは、野生では十数頭の小さな群れで生活する動物です。そうした生態を活かしつつ、充実した展示を持続的に行うため、頭数の管理は動物園の重要な役割の一つです。

カンガルーの場合、比較的容易に繁殖し、頭数の確保ができるため、飼育スペースの広さや健康状態、年齢・血縁関係等を考えて繁殖の計画を立てます。

当園では2019年からオスとメスを分けて飼育し、適正な時期に同居を行う取り組みにより、これまで複数回の繁殖に成功しています。

しかし、近年飼育されているオス、



メスカンガルーたち

メス全ての個体が当園生まれとなったため、新たな血統更新が必要となっていました。

そのような中で、2026年5月、横浜市立よこはま動物園より新たなオスの「ロミオ」を搬入することができたため、メスとの同居を行い、繁殖を目指す予定です。

お腹の袋（育児嚢）から顔をのぞかせる赤ちゃんの様子はとてもかわいらしくて癒やされます。今後も一頭一頭が健やかに暮らし、来園者に元気な子どもたちをご覧いただけるように、日々の健康管理に努めたいと思います。



新たに仲間入りしたロミオ



オスカンガルーたち



動物病院から

新人獣医師の日々

飼育展示担当（獣医師） 石川 洋

皆さんは動物園獣医師と聞いてどんなお仕事を想像しますか。私はこれまで、町の小動物病院や外来生物の対策機関に従事し、2026年4月から大森山動物園に勤務しています。これまでも多くの命と向き合ってきましたが、動物園に来て日々感じていることは、動物園は動物の「生」を迎え入れ、「死」を見届け、動物の一生を共にする場所であるということです。そうした動物園で獣医師として働く上では、繁殖から始まり、予防、治療、解剖まで、その動物が生きた軌跡を辿りながら、後世に繋げていく一助になればと考えています。

動物園では注射や投薬が簡単ではない動物が多いため、治療が困難になるケースが少なくありません。そのため、動物を病気にさせないための予防はとても大切です。具体的な取り組みとしては、日々飼育員と協力して定期検査や治療のトレーニングなどを行っています。しかし、それでも病気にかかり治療が必要になるケースも発生します。動物種も多いため、投薬をどうするか、麻酔をかけて処置を行うかなど、それぞれの特性を考慮し、治療方法を工夫する必要があります。そして、そうした工夫も動物園獣医師のやりがいの一つだと感じています。



ゾウのトレーニング



キリンの採血トレーニング

イベントレポート

通常開園スタート

3月20日



動物たちのお出迎え

沼谷市長のほか、ネーミングライツ・パートナーの秋田銀行様にもご出席いただき、開園セレモニーを行いました。セレモニー後、動物たちが来園者をお出迎えしました。



開園セレモニー

飼育の日イベント

4月19日



バックヤードツアー

4月19日の「飼育の日」にちなんで、飼育員の仕事を楽しく学べる特別イベントを開催しました。バックヤードツアーでは、普段は立ち入れない裏側を探検し、「No.1をめざせ!! 飼育員選手権」では、清掃など3つの作業をゲーム形式で参加者同士が競いました。最後は作業服を着て記念写真も。



作業服を着て記念撮影



飼育員選手権のデッキブラシ鬼擦りコース

ゴールデンウィーク 特別イベント

4月25日~5月6日



ムーンの誕生会ではトレーニングの様子も公開

例年、県内外から多くのお客さまが来園くださるゴールデンウィーク。期間中の土日祝日には日替わりで特別イベントを開催。今年は、ゾウ展示場の中に入ってアフリカゾウ「花子」の普段の生活などを楽しく学ぶ「ゾウの展示場へレッツゴー!」や、ホッキョクオオカミ「ムーン」の誕生会などを開催しました。



ゾウの展示場で花子の生活を体験

春の動物ふれあい フェスティバル

6月7日



どうぶつパレード

動物たちが園路を行進する「どうぶつパレード」を開催したほか、パレード終了後には動物たちとの記念撮影を楽しみました。「たのしく歩こう! 命とふれあうガイドツアー」では、カワウソやゾウにエサをあげたり、カピバラやトナカイを間近で観察しながら飼育員が動物の命について解説しました。



ガイドツアーで動物たちを間近で観察

飼料作物スタックスの 共同栽培

5月19日~7月7日



スタックスを花子にプレゼント

浜田小学校と栗田支援学校の3年生29名が参加し、「ゾウさん堆肥」を使ったスタックスの栽培・収穫を5月から7月にかけて実施しました。

刈り取ったスタックスは、児童の手でゾウ舎へ運び、アフリカゾウの花子にプレゼント。児童たちは、ゾウのフンから作った堆肥でスタックスが育ち、それをまたゾウが食べるという自然の循環を体験的に学ぶことができました。



スタックスの収穫作業

第49回 親と子のふれあい 写生大会

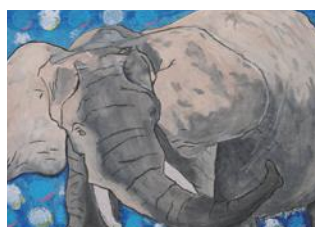
7月1日~7月28日



秋田市長賞
秋田市立牛島小学校 5年
舟木 新「Lion」



秋田市議会議員賞
ナーサリー小鳥の木 (5歳)
加藤 好「かぎがだいすきメレブちゃん」



秋田市教育長賞
秋田市立御所野学院中学校 1年
西館 澄玲「My summer」

参加希望者に画用紙を配布して、園内または自宅で作品の制作を行いました。提出された230点から、秋田市造形教育研究会による審査で31点が入賞し、上位入賞者には8月23日の表彰式で賞状と副賞を贈呈しました。市長賞など上位3賞へ贈呈されたオモリントロフィーは、新屋ガラス工房に制作いただきました。

第52回 サマースクール

7月27日、29日



トナカイの展示場をきれいに掃除

7月27日には小学校3年生以下、29日には4年生以上の計29人が参加しました。参加した子どもたちは、飼育体験やクイズ、体重測定などを通して飼育員の仕事や動物の体の特徴について学びました。



アカコンゴウインコ「メレブ」の
体重測定

夜の動物園

8月11日~16日 ※13日を除く



大人気! カピバラのスイカタイム

ライトアップされた園内で、大人気の「スイカタイム」やどうぶつ解説など、夏の夜を感じられるイベントを行いました。期間中は天候にも恵まれ、1万4千人を超えるお客さまにご来園いただきました。



迫力満点のライオン

今後のイベント(予定)

- ・11月29日(日)「さよなら感謝祭」
※11月30日(月)通常開園最終日
- ・12月の毎週日曜(6日、13日、20日、27日)
「クリスマス動物園」
- ・2027年1月9日(土)~2月28日(日)の土日祝日
「雪の動物園」
※クリスマス動物園と雪の動物園の開園時間は10時~15時
(入園は14時30分まで)



飼育日誌

1/2	ベニコンゴウインコ	巣箱の中の卵2個。1つは割れていた。
1/4	フンボルトペンギン スバルバルライチョウ	右紫おふらつき・削痕あり、隔離飼育切り替え。 コッシーお 体重測定実施。883g(12/21より▲17g)
1/5	ニホンアナグマ	冬ごもりしないため、今日から給餌再開。
1/9	ユキヒョウ	アサヒお 収容時、リヒトの部屋の前で鼻鳴き。
1/11	チンパンジー	イベント(J太郎・K太郎 成人式)。
1/13	フタコブラクダ アフリカゾウ	福お メスに対してかなり積極的に近寄る。 疳痛症状のような行動確認。投薬。
1/18	グリーンイグアナ	アナお 食欲減退継続。尿酸、排便(血便)各1カ所。便中の内容物増加傾向。
1/24	カピバラ	大豆お 病院からカピバラ舎へ移動。
1/31	レッサーパンダ	ケンシンお 令花に対して恋鳴きをしているのを初めて確認。
2/1	ニホンコウノトリ	巣材投入。
2/10	カリフォルニアアシカ	マヤお 左口唇炎、口内炎用軟膏塗布。アイラお 患部に噛まれたが、軽傷。経過観察。
2/11	ニホンイヌワシ	第二ペア(西目ペア)第1クラッチ2卵目の採卵。
2/13	プレーリードッグ	キャスおムーンお繁殖に向けた同居開始。
2/14	ミーアキャット	終日同居開始。ゆかりお 抗生剤内服(本日で終了)。
2/15	コモンマーモセット	もめんお、モコおの交尾確認。
2/16	レッサーパンダ	ひなたお 令花、交尾確認。
2/17	モルモット	橋渡り練習。
2/25	ニホンイヌワシ	たつ子お 2卵目を産卵。順調に抱卵中。
2/27	コモンマーモセット シロマダラ	仔1頭天井フェンス網目すり抜け上に上がっていた。ネット設置。 全身白濁。
3/2	ニホンイヌワシ	孵卵器2・3卵目をたつ子へ移入。たつ子3卵を孵卵器へ移入。
3/5	コツメカワウソ ミーアキャット	全頭の餌にゼンビタンを添加開始。 ゆかり性別再確認、産箱準備。
3/6	タンチョウ	みっちゃんお 左翼骨折。
3/7	シマフクロウ	アオハお 2卵目産卵(朝05:55)。
3/8	アムールトラ	カサンドラお 軽度な発情兆候あり。ローリングするが鼻鳴きなし、後日複数人で確認。
3/9	タンチョウ チンパンジー	みっちゃんお 断翼。 ジェーンお リンゴジュースを飲む際、右側からガラガラこぼれる。
3/10	アムールトラ	同居実施。
3/11	インドタテガミヤマアラシ	おこげお・トロワお同居。
3/12	アカカンガル ツキノワグマ	ヒラメお移動(馬舎からカンガルー舎)。 ルビーお 冬ごもり終了。
3/13	アフリカゾウ トナカイ チンパンジー	直腸に温水を流し込む。 しなのお 両角落角完了。 K太郎お、咳あり。ボンタお咳き込み見られず。朝食時に小児用風邪薬をボンタお、ジェーンお、K太郎おに内服。
3/16	アメリカオオコノハズク プレーリードッグ	カオお嘴・爪切り。 おの交尾行動減ってきている。
3/17	ニホンコウノトリ	3卵目産卵。ペアおと単独おとの闘争あり。
3/18	ライオン	トモお と体給餌。

3/19	プレーリードッグ チンパンジー	ボンお妊娠の可能性。 ジェーンお 寝室に階段設置。
3/20	シマフクロウ	破卵、巢内に殻等なく回収できず。
3/22		孵卵器。ニホンイヌワシの卵、検卵。5卵中2卵を残し、3卵は冷蔵保存。
4/3	ニホンイヌワシ	孵卵器で管理していた2卵について中止卵と判断。運用を終了した。
4/10	シマフクロウ	2クラッチ目産卵。
4/11	ノドジロオオキザル マーコール	茶太郎おとエディおの交尾確認。 ゆべしおの腹回りがふっくらしてきた。
4/12	ホッキョクオオカミ	ニッキーお 採食スピード遅い、歯牙疾患・顎疾患疑い。後日麻酔下検査予定。
4/15	ニジキジ	1個産卵あり。(現在計6個)抱卵せず。
4/21	ヒツジ	キャンディお 毛刈り実施。
4/24	キリン	2頭体重測定。
5/2	スバルバルライチョウ	照明24h継続。
5/17	アメリカビーバー	月おチャットおへのマウント行動確認。再度おお隔離。
5/18	フタコブラクダ	全頭で乾草の残餌多め。茎が太い事が原因と思われる。
5/19	ニホンリス ニホンコウノトリ シマフクロウ	お群れ同居。 巢台、擬卵撤去。 アオハお 巣箱内にいるが抱卵していない。
5/30	キョン	ノゾムお 左角落下し、出血あり。
5/31	アメリカビーバー	午後同居実施。
6/1	レッサーパンダ	高病原性鳥インフルエンザ警戒態勢解除。 お2頭 妊娠の可能性があるので、当面の間非展示。
6/2	インドクジャク キリン カナダヤマアラシ	インコ舎サッシ外し。 全羽展示場に放飼。小屋Cのみ扉オープン。 2頭とも採血。ケイタおは2年ぶり。 採食不良により点滴と投薬実施。動物病院に移動(避暑のため)。
6/4	アメリカビーバー	チャットお 下顎門歯切除。
6/5	アムールトラ	午前にシュウおとカサンドラお 放飼場で同居(1日目)。
6/6	キリン	ケイタお 角当てにより仕切り扉が開き、2番室に移動していた。
6/10	トナカイ	アポロおと群れの同居開始。
6/11	ラマ	モスおキリン舎でヒロおと同居開始。
6/16	コモンマーモセット	モコお腹囲膨満、妊娠の可能性あり。
6/17	エミュー	外展示場で3羽の同居。
6/18		飼育水槽下ゼニナガシメ稚魚浮出。
6/20	ニホンリス	由利子お 乳頭目立ってくる。妊娠の可能性あり。
6/21	スバルバルライチョウ	コッシーお避暑のため隔離棟へ移動。
6/23	チンパンジー シマフクロウ	K太郎お 本日も新しい洗濯機に警戒して鳴く。 スポットクーラーON。
6/26	マーコール	仔お 右眼に羞明あり。眼軟膏塗布。
6/27	レッサーパンダ	令花お いつもより腹部が出ている。右下の乳首も出てきている。BW増加。
6/28	チンパンジー ニホンザル	J太郎お 未明の地震の影響か、軟便気味。便量も多めだった。 サル山 空き缶を持っている個体がいるが回収できず。
6/30	ミーアキャット	出島で餌やり練習。



お客さまの声

- 4/14 トナカイ、ホッキョクオオカミが展示されているのは感動でした。レッサーパンダのまんまタイムも写真の撮りがいいがあり、素晴らしいです。また、来園したいと思います。
- 4/29 動物病院のお話を始めて聞きました。とても面白かったので定期的に実施してほしい。今後高齢の動物のケアについてお話を聞いてみたいです。
- 5/3 若い頃、現在40代の子どもたちを連れてきたことがあり、今回は本当に久しぶりの来園でした。素敵な動物園になっていて、1日大変癒やされました。
- 5/21 園内とても静かで動物たちがのんびり寝て過ごしているのが良い。なかなか度々くることは難しいですが冬にきてみたいです。
- 6/24 動物の写真を使ったグッズが大好きなので増やしてほしい。
- 7/8 思い出に残るシンリンオオカミたちのパネルがとてもすてきでした。各動物たちの手書きの個別説明もかわいかったです。
- 7/12 7/11の夕涼み動物園は天気がいにくでしたが、夜のガイド(訪問!となりの晩ごはん)の内容が興味深く面白かったです。

かたばた通信

この春、総務担当として異動し、庶務経理を中心とした業務に携わっています。異動前は、動物園は子どもや家族連れが楽しむ施設という印象でしたが、実際には、その魅力はそれだけではありませんでした。愛らしい動物たちの姿、季節の花壇や美術大学の学生によるアート作品、飼育員による手作り看板の数々、自然の美しさ。大森山動物園は、時間を忘れるほどの癒やしであふれていました。秋には、園内や隣接する公園で紅葉も楽しめます。その時期ならではの動物たちの様子や、ゆったりとした園内の雰囲気を楽しみながら、大人の方にも心安らぐ時間を過ごしていただければ幸いです。(高橋)

